むかし「局アナ」 いま「隠居」

「三文字」熟語

上田 博章(絵・文)
1933年徳島市生まれ 大阪府在住
■京都大学農学部林学科卒業
■元朝日放送アナウンサー
■元池田マルチメディア代表取締役
■講演、朗読指導など以外は隠居中

テニスの錦織圭 選手が、去年の 11月、フェデラーにストレートで敗れた直後、インタビューされたときのコメントで、

「準決勝まで来られたのが大きな経験[値]になった」

と述べていました。

これを聞いた私は、

「大きな[経験]になったと言えばいいのに、どうして[経験]ではなく、[経験**値**]なんだろう?」

と不思議に思ったのです。

言葉を商売道具に使って放送会社のアナウンサーを何十年も勤めていますと、他人様の言葉が気になって仕方がありません。

自分のことを棚に上げて気になるのです。

「これが私の悪い癖」

＊

「経験則」ならともかく、「経験**値**」などという言葉、私如き老人は聞いたことも使ったことも ありませんでした。

「こりゃあ、若造がカッコつけて、勝手に拵えた新語かも知れないぞ」

…私は先ず手始めにウチの一九九三年版「広辞苑」を引いてみたのです。

やはり「経験**値**」は載っていませんでした。

然らば…と「電子辞書」のキーを叩いたら、ちゃんと出ているし、パソコンだと、さらに詳しい説明が載っているのです。

その記述によりますと、経験値とは…、

『アメリカで大ヒットしたコンピュータゲームの中に登場するキャラクターが、経験を積み、成長してゆく度合いを数量化したものが経験値(Experience Point)である』

という言葉の起源らしき解説がありました。

どうやら、コンピュータゲームの中で生まれた言葉だったようで、80歳過ぎた私が知らないのは当たり前だったようです。

そんな私と違って、若い錦織選手は殆んど英語圏で活動している人でしたから、コンピュータゲームの中の「Experience Point」とか「経験**値**」なる新しい言葉を日常語として使ったに違いありません。

「大きな経験**値**となった」

このコメント は、

「今日は負けたけど準決勝まで来られたので、順位にからむポイントは 稼げた。まぁ仕方がない」

という意味が込められていたのではないでしょうか。

なぜなら全仏オープンでツォンガに敗れたときは、敗北を「経験**値**」とは言わず、「経験」と言っています。

つまり敗北を反面教師と捉えているところに、彼の惜しさがにじみ出ていると私は感じました。

＊

世に「四(文)字 熟語」というのがあって、クイズや試験問題に出たりします。

「弱肉強食」という熟語を求めようとして「□肉□食」という問題を出したところ、「**焼**肉**定**食」なる名回答が現れて、試験官が狼狽した話は つとに有名でした。

一方、「三文字(さんもじ)熟語」は、試験問題やクイズの問題になりにくいからか、あまり話題に上らない熟語ですが、三文字熟語には「**極**悪人」や「悪人**面**」のように接頭語や接尾語がついて三文字になるのが多いようです。

「経験値」も、接尾語系の三文字熟語でしょう。

ほんの日常語に過ぎない「経験」に、接尾語「値」が付いて「経験値」となると、なんとなく高尚なムードを感じませんか?

論文や論評。講演や講義、または堅苦しい会議の席…そんなとき出てくる言葉に、この手の接尾語が 付いて来るような気がします。

政治家、評論家、解説者、大学教授といった先生方は、何かと難しい言葉を使ってご意見を述べるものですが、こんな方々は、普段使っている日常語に「的」や「性」「感」などの接尾語を付けて、「~的」とか「~性」「~感」といった三文字熟語を使うのがお好きなようです。

いや、考えてみますと、ややこしい熟語を、やたら使いたがるのは、そういう先生方だけの話ではなくて、幼い男の子や、兄ちゃん、オッサン、恥ずかしながら私も含めて、「男ども」に、その傾向が強いのではないでしょうか。

例えば、

「これは有効な方法です」

と言えばいいのに、

「有効**的**な方法です」

なんて言う人がいますが、

「ユウコウテキ」と言えば今の日本では「友**好**的」の意味になってしまいます。

また 知り合いの男性で、「方法**論**」という言葉が気に入っているのでしょうねえ、「方法」と言えばいいのに、意味なく「方法**論**」と言うお人がいました。

「その問題を解決するのにいい方法**論**があるんだよ」

と言われて、よく聞いてみると、単なる「方法」に過ぎない…、本人は「方法」と言っているつもりなのに、お気に入りの言葉ですからつい口から出てしまったに違いありません。

「この絵には凄い価値**観**があるんですよ」

なんて言う人がけっこういらっしゃいます。

こういう御仁は きっと、「価値も、価値**観**も、まあ似たようなもんやろけど、価値**観**の方が芸術的で高邁な言葉じゃ」

…とでも 思っているのでしょうか。

＊

「考え方の違い」と言えばいいのに、

「思考回路のギャップ」

とおっしゃった有名人をテレビで 見たことがありました。

トーク番組に出るようなお人は何かと難しい言葉や外来語混じりの回りくどいフレーズを使いがちです。

でも中には「ありゃ?」と首をかしげたくなるような漢字選びをしているお方もいらっしゃいました。

錦織選手の「経験**値**」に因み、今回はテレビに出てきた 三文字熟語について少し取り上げてみましょう。

元外交官、孫崎享さんがテレビの中で「有力な」と言えばいいのに「有力**的**」と仰っていました。

この「的」という接尾語は、まことに便利な接尾語ではありますが、使わなくてもいいところで乱用するのは控えた方がよろしい。

「~性」の「性」も、付ける必要がないところに、つい口癖のように付けてしまう傾向があります。

タレントで気象予報士の石原良純さんがテレビで、

「関係がある」

という局面で、

「関係**性**がある」

と言っていました。

まぁどちらでも同じような意味ですから、誤解を招くことはありませんが、どう考えても「**性**」は不要…いや、無い方が美しい。

＊

「ニュース23」のアンカー、岸井成格さんも最近、

「それは、率直**的**な御意見ですねえ」

と 仰っていましたが、「的」は不要です。

＊

タイガースの捕手だった矢野さんは、解説のなかで、「わざと」または「故意に」と言うところを「故意**的**に」と仰いましたし、同業者の長嶋一茂さんや、カープの黒田投手も「方向」のことを「方向**性**」と仰っていました。

彼らに「方向性」なんて言われますと、なんとなく球筋を専門的に、科学的に分析している…と錯覚してしまいそうです。

＊

視聴者のお宝を鑑定する「なんでも鑑定団」の放送で、鑑定人の誰かが「貴重**性**」という言葉を使いましたが、これは、ひょっとしたら、「骨董界の業界用語」かもしれませんねえ。

＊

TBSのナレーションに「広々**性**」というのが出てきたときは、ユニークさに呆れました。

実に解り易い新語です。

「ボク**的**」

…と言うのと同じレベルで、まことに解り易い。

こんな平たくて解り易い三文字熟語ならナンボでも作れます。

仕事的、仲間的、痴漢的、警戒力、出世力、積極力、会社力、我慢力、猛烈性、溌剌性、原発値、黒字感、「言葉は情報伝達のツールだから情報が相手に正しく解り易く伝わるのが一番」…と主張する人もいますが、何でもいい、解り易ければそれでいいというものではないような気がするのは、言葉に対する私のセンスが古いのかも知れません。

然らば 私も若者ぶって一筆、認めてみましょう。

「ボク**的**に思うのですが、言葉**的**な問題は、世代**性**や環境**性**、各人の教養**力**とか言葉**感**が問題で、単純**的**に結論**性**を急ぐのは言葉**論**の混乱**化**を招きます。未来**的**考察**力**で日本語**力**の価値**観**を上昇**化**させようではありませんか」

ありゃ?「日本語力」は**四**文字熟語でしたな。